



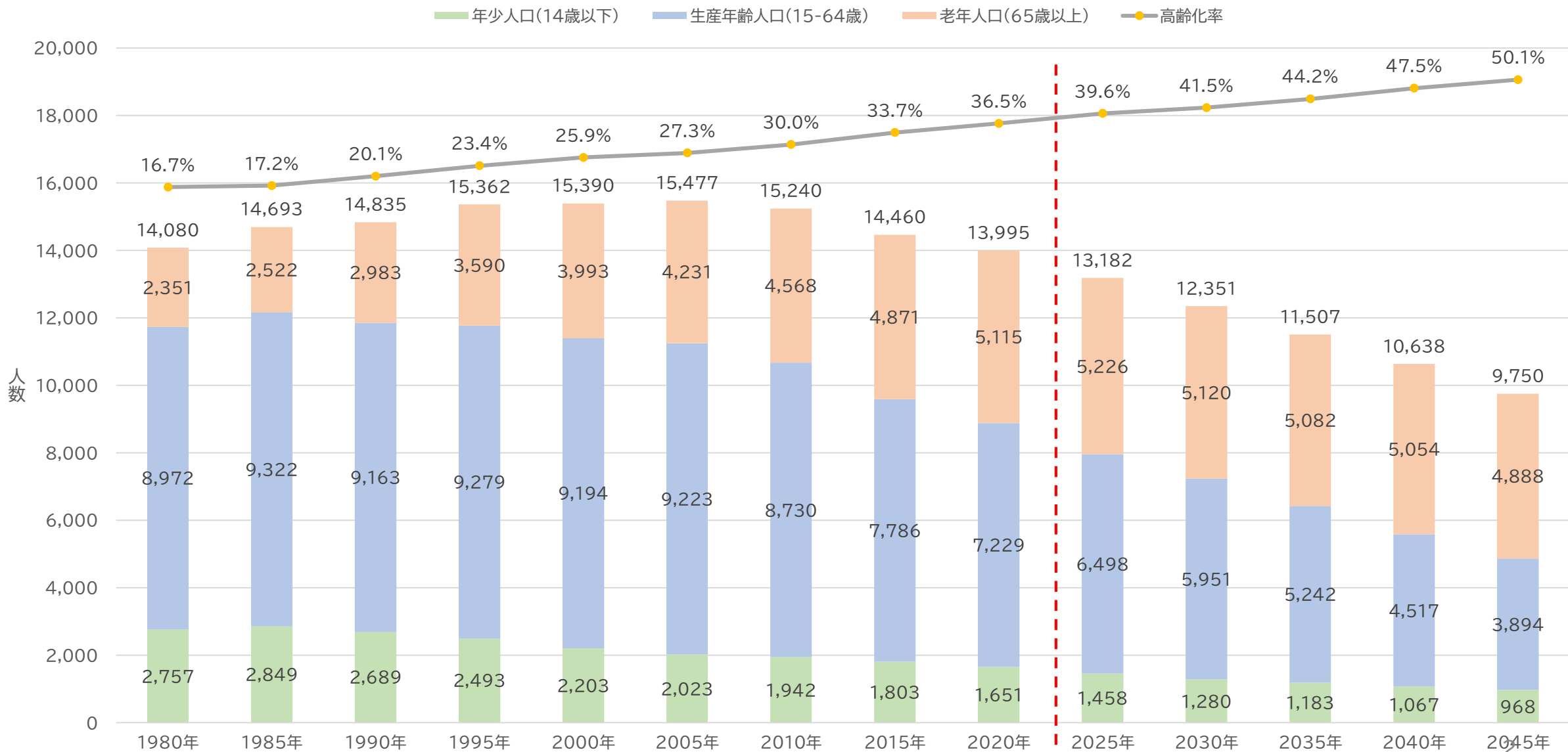
富士見町 区・集落組合 事例共有会

2026年9月18日

富士見町役場

総務課 まちづくり推進係

富士見町 人口推移（国勢調査）



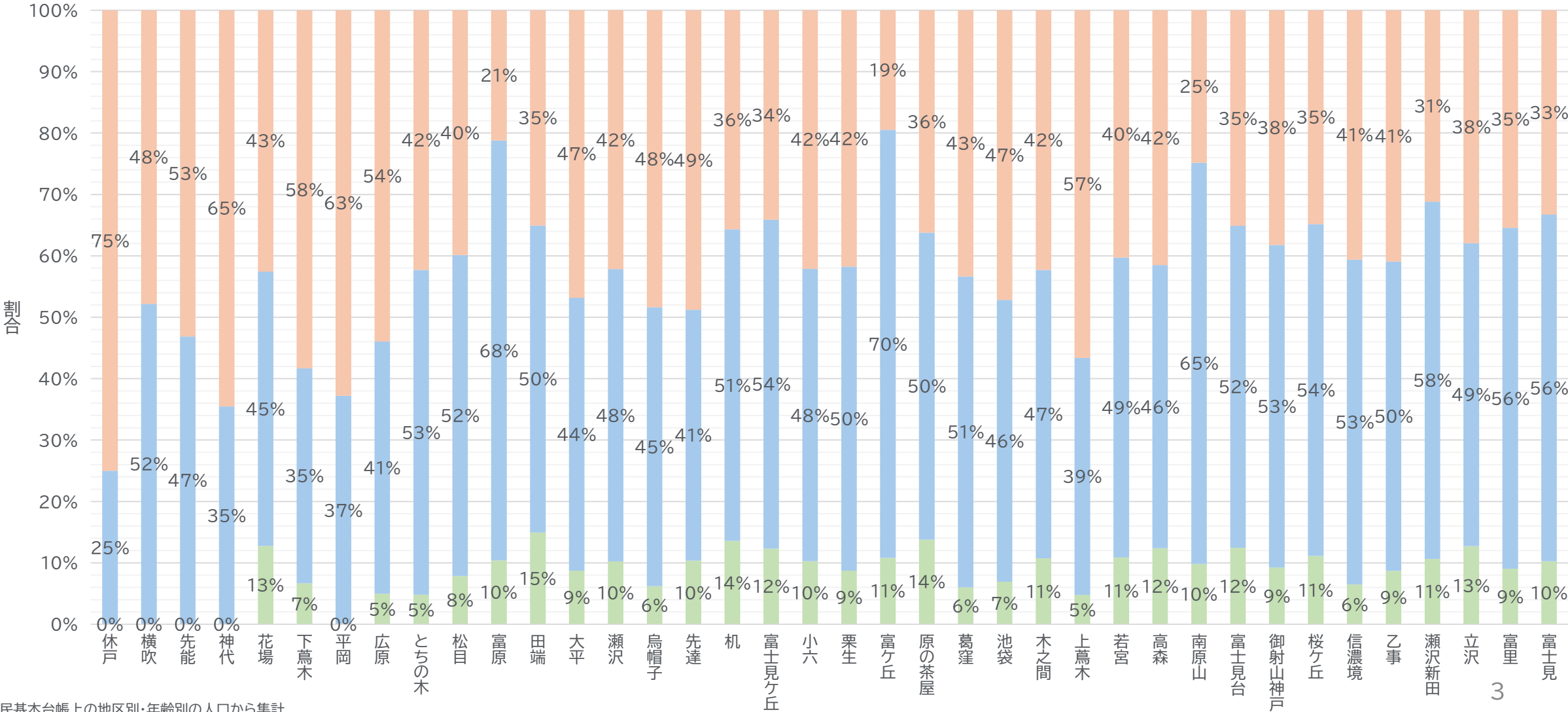
推計値

※国勢調査の結果をもとに作成。2025年以降は推計値
※2020年の数値は年齢不詳89名を含んでいない

年齢区分別割合 2026.04.01

【富士見町 全体】
老年人口割合(65歳以上) 37.8%
生産年齢人口(15-64歳) 52.4%
年少人口(14歳以下) 9.8%

■年少人口(14歳以下) ■生産年齢人口(15-64歳) ■老年人口(65歳以上)



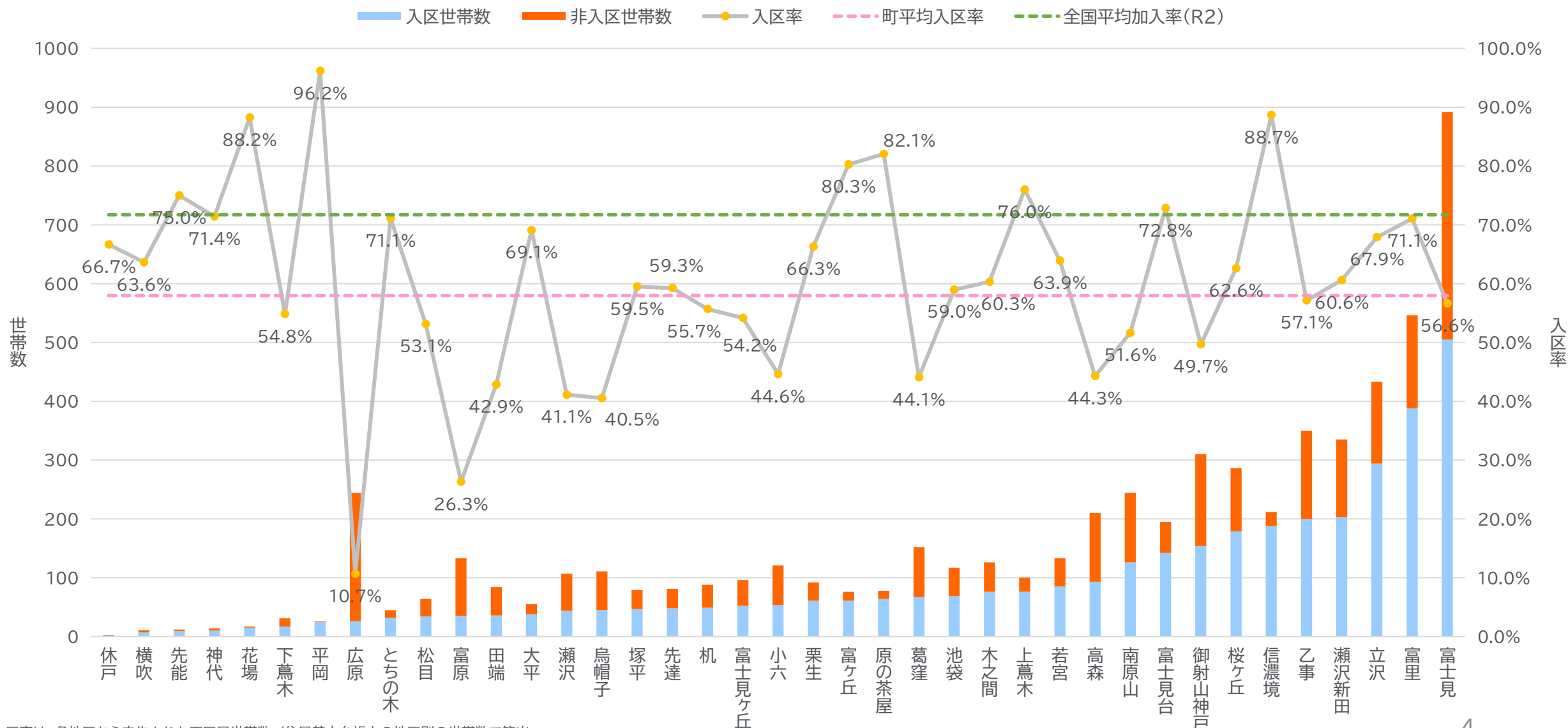
※住民基本台帳上の地区別・年齢別の人口から集計

区・集落組合の現状

注:算出に使用している世帯数の数え方が、各地区および住民基本台帳上では異なることから、各地区の状況を正確に反映している数字ではありません。なお、母数となる世帯には集合住宅居住者等も含んでいます。

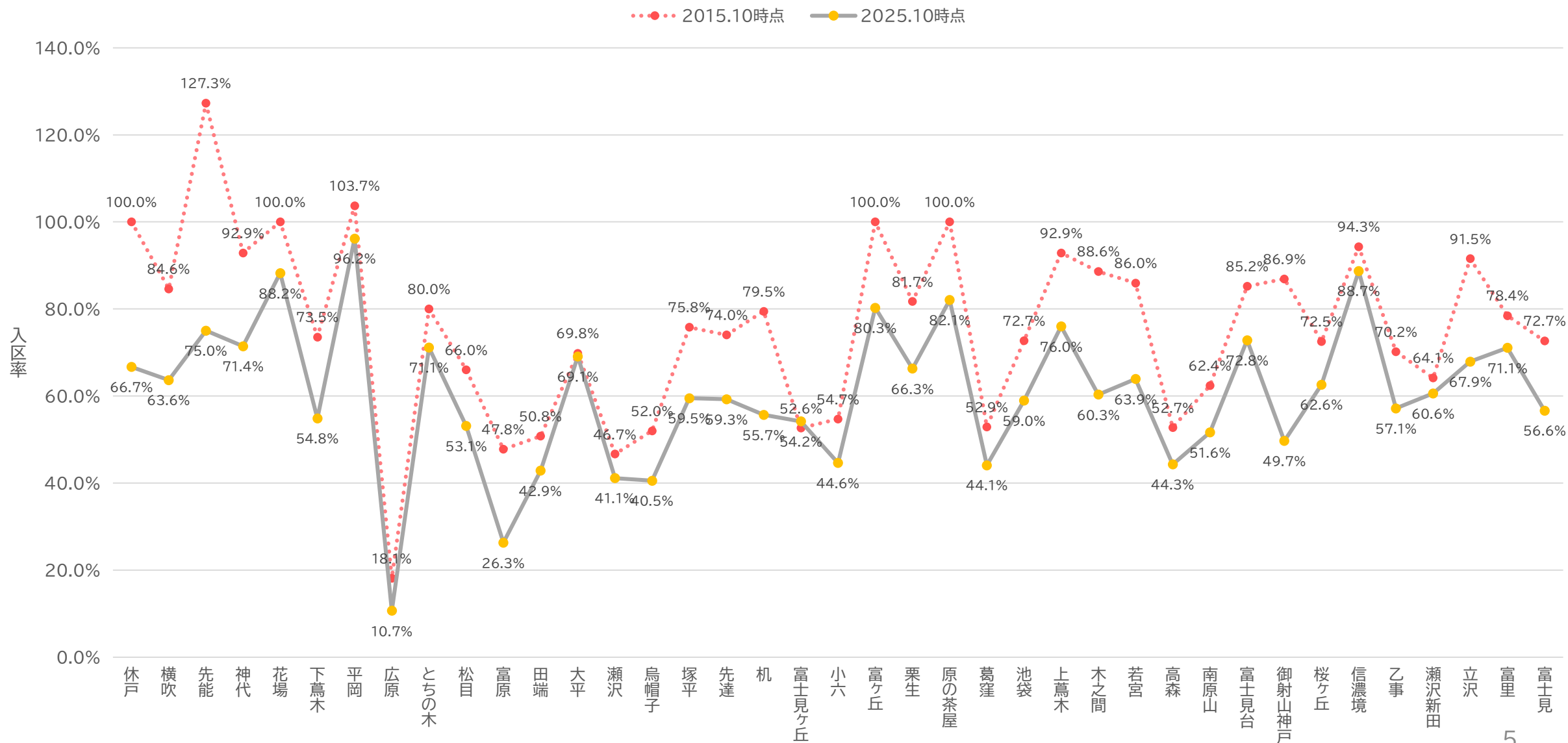
富士見町
Fujimi town

<参考値> 入区率 2025.10



※入区率は、各地区から申告された正区民世帯数／住民基本台帳上の地区別の世帯数で算出
 ※全国平均値はR4年総務省「自治会等に関する市区町村の取組に関するアンケートとりまとめ結果」より

<参考値> 入区率の経年変化(2015.10 v 2025.10)



◇ R5年度 集落点検シートの抜粋（39地区中、35地区の区長から回答）



日常生活で地区内の助け合いはありますか？

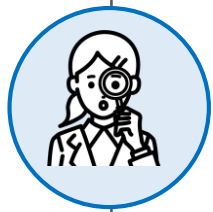
(ある)23地区 (ない)10地区 (不明)2地区

具体的には、近所への声掛け・共同の雪かき・高齢者の見守り・買い物、通院の手伝い 他



今後地区人口の変化により、地区での活動や作業は、どのように変化すると思いますか？

- ・高齢化、区民の減少で従前の作業や行事等を見直す必要が生じる（27地区）
- ・区民の減少により、区役員のなり手がなくなる（6地区）
- ・区に加入しない住民が増え、区民との関係が悪化する
- ・区有の施設、特に区有林には手が付けられなくなる
- ・災害時に対応できる区民がいなくなる 他



地区の将来をどう考えますか？

- ・高齢化、区民の減少で従来の作業や行事等が出来なくなり、区の運営自体も見直す必要が生じる（14地区）
- ・廃区となる・限界集落になる
- ・荒廃農地が増え続け、従事者がいなくなる
- ・様々な施設(店舗、農業施設、病院等)がなくなり、生活に不便な地区になってしまう 他



令和8年4月26日(日曜日)に「地域」をテーマにした対話会を開催して31名が参加。
「住民」・「区・集落組合」・「行政」の観点で解決策の検討を実施。

	1. 区の理解促進	2. 運営負担と参加しやすさ	3. 他地区の取組を知る機会
要点	区が担う役割や、加入する意義・手続き・負担が十分に伝わっていない。特に、移住者やアパート・借家居住者に情報が届きにくい。	役員、出払い、行事などの負担が大きく、担い手不足につながっている。新しい住民や若い世代を含め、参加しやすい運営や雰囲気づくりが課題となっている。	他地区でどのような見直しや工夫が行われているかを知る機会が少ない。参考となる事例が少なく、運営を見直すきっかけをつかみにくい。
主なご意見	・区の役割が分からない ・区ごとのルールが不透明 ・移住者が区に加入しない ・アパート住民への案内が不足している ・正区民、準区民、未加入の違いが分かりにくい	・役員の仕事や出払いが大変 ・担い手、消防団員、加入者が減少している ・行事が多く、一人で何役も担う ・区ごとに負担感に差がある ・迎え入れてくれる雰囲気が不足している	・他区の情報や取組が分からない ・他地区の工夫を知る機会がない ・分かると、行事や運営を見直す参考になる



町民アンケートの結果

【実施目的】

人口減少や高齢化、生活スタイルの変化などにより、地域を取り巻く環境は変わりつつあるなか、現在の区・集落組合への加入状況にかかわらず、町民の皆さまが区・集落組合についてどのように感じているかを把握するため。

【実施期間】

6月2日(火)～6月30日(火) ※オンライン方式は6月11日(木)配信

【実施方法】

区分	対象者数
郵送方式	800人
オンライン方式	約3,000人

【回答数】

区分	回答数	備考
郵送方式対象者からの回答	341人	郵送回答121人、オンライン回答220人
オンライン方式対象者からの回答	113人	
合計	454人	

【確認上の注意】

本アンケートには複数選択可の設問が含まれるため、各選択肢の割合の合計が100%を超える場合がある。

自由記述については、AIを活用して回答内容を主な趣旨ごとに分類・整理。

自由記述は回答者本人の認識に基づくもので、区・集落の事情、経緯、歴史をすべて認識しているとは限らない。

【年代】

年代	回答者数	割合
20代以下	2	0.4%
30代	58	12.8%
40代	160	35.2%
50代	61	13.4%
60代	77	17.0%
70代以上	89	19.6%
未回答	7	1.5%
総計	454	100.0%

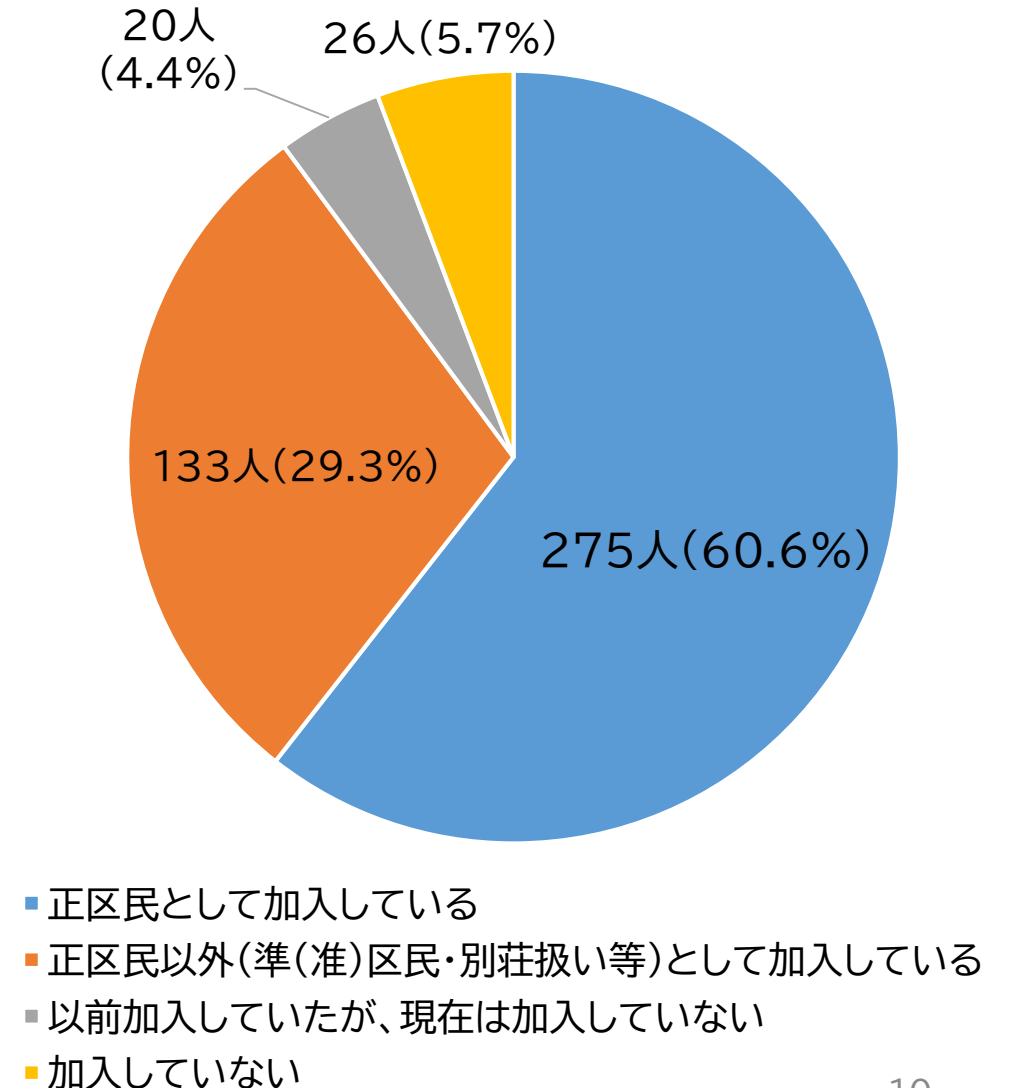
【居住地区】

地区	回答者数	割合
富士見地区	179	39.4%
本郷地区	85	18.7%
落合地区	82	18.1%
境地区	102	22.5%
その他	6	1.3%
総計	454	100.0%

【居住年数】

居住年数	回答者数	割合
1年未満	12	2.6%
1～5年	71	15.6%
6～10年	49	10.8%
11年以上	322	70.9%
総計	454	100.0%

【区・集落組合への加入状況】



区・集落組合について感じていること

区・集落組合について感じていることを尋ねたところ、主に以下の回答が挙げられた(複数選択可)

	正区民として 加入している		正区民以外として 加入している		以前加入していた		加入していない		総計	
	選択数	割合	選択数	割合	選択数	割合	選択数	割合	選択数	割合
地域の支え合いとして必要だと感じる	183	67%	51	38%	3	15%	5	19%	242	53%
活動には意味があると思う	135	49%	39	29%	2	10%	5	19%	181	40%
一部の人に負担が偏っていると感じる	130	47%	30	23%		0%	2	8%	162	36%
活動内容が現在の生活に合っていないと感じる	81	29%	35	26%	4	20%	5	19%	125	28%
役割やルールが分かりにくい	60	22%	33	25%	2	10%	6	23%	101	22%
参加しづらい雰囲気がある	26	9%	38	29%	6	30%	5	19%	75	17%
必要性は感じるが関わり方が分からない	15	5%	34	26%	1	5%	6	23%	56	12%
特に不満はない	27	10%	19	14%	2	10%	3	12%	51	11%
その他	19	7%	16	12%	1	5%	6	23%	42	9%
未回答	2	1%	4	3%	5	25%	1	4%	12	3%
総計	678	-	299	-	26	-	44	-	1047	-
(参考)回答者数	275		133		20		26		454	

正区民および正区民以外として加入している方では、「地域の支え合いとして必要だと感じる」、「活動には意味があると思う」という回答を選択した方が多く、加入区分にかかわらず、区・集落組合の必要性や役割については一定程度認識されていることがうかがえる。一方で、正区民の中には、「一部の人に負担が偏っている」、「活動内容が現在の生活に合っていない」と感じている方も見られ、必要性を認識しながらも、現在の運営方法や負担のあり方について課題を感じている状況がうかがえる。

正区民が必要と感じている今後の取組

今後、誰もが加入しやすく、関わりやすい区・集落組合にしていくために必要だと思うことを尋ねたところ、主に以下の取組が挙げられた。(複数選択可・**正区民を抜粋**)

	正区民として加入している									
	居住1年未満		居住1～5年		居住6～10年		居住11年以上		総計	
	選択数	選択割合	選択数	選択割合	選択数	選択割合	選択数	選択割合	選択数	選択割合
役員や当番の負担軽減	1	50%	22	58%	21	72%	143	69%	187	68%
行事や活動の見直し・簡素化	1	50%	20	53%	17	59%	108	52%	146	53%
若い世代や移住者への丁寧な説明			19	50%	12	41%	82	40%	113	41%
参加の強制感を減らすこと			13	34%	14	48%	73	35%	100	36%
少人数でも運営できる仕組みづくり			16	42%	9	31%	69	33%	94	34%
デジタル活用による連絡・情報共有			19	50%	11	38%	63	31%	93	34%
区・集落組合の役割や必要性の共有			18	47%	10	34%	61	30%	89	32%
関わり方を選べる仕組みづくり			11	29%	10	34%	41	20%	62	23%
活動内容やお金の使い道の見える化	1	50%	12	32%	10	34%	36	17%	59	21%
世代を超えて交流できる機会づくり			10	26%	5	17%	34	17%	49	18%
すでに誰もが加入しやすく、関わりやすい区・集落組合なので特に改善の必要は感じない	1	50%	1	3%	2	7%	17	8%	21	8%
その他			6	16%	1	3%	7	3%	14	5%
未回答	1	50%		0%	1	3%			2	1%
総計	5	—	167	—	123	—	734	—	1029	—
(参考)回答者数	2		38		29		206		275	

今後の取り組みとしては、役員や当番の負担軽減、行事・活動の見直し・簡素化、少人数でも運営できる仕組みづくりなど、**人口減少や高齢化、生活スタイルの変化に対応した運営が必要だと考えている方が多い**ことがうかがえる。
また、若い世代や移住者への丁寧な説明、デジタルを活用した情報共有、区・集落組合の役割や必要性の共有も挙げられており、**負担軽減と情報発信の両面から、参加しやすい環境づくりを進める**ことが重要であると考えられていることがうかがえる。

自由記述については、AIを活用して回答内容を主な趣旨ごとに分類・整理。

1. 区活動の必要性和課題

多くの正区民が地域活動の重要性を認識しており、区の存続に対する強い思いが見られる。一方で、少子高齢化や人口減少に伴い、活動の担い手不足や負担の偏りが大きな課題として挙げられている。特に、高齢者や若い世代への負担集中、移住者への負担増を問題視している。

2. 時代に即した変化への期待

「前例踏襲」や「昔ながらのやり方」を見直し、現代の生活スタイルや社会環境に適応した運営方法を求める声が多い。具体的には、行事や役員負担の軽減、デジタル化による効率化、柔軟な参加方法の導入などを提案している。

3. 移住者との関係性と課題

移住者を歓迎する意見がある一方で、移住者との価値観の違いや、区への未加入による不公平感が課題として挙げられている。移住者が地域活動に関わりやすくなる仕組みや、区の役割や意義を伝える努力が必要だと考えられている。

4. 具体的な改善提案

自由記述では、以下の具体的な提案が多く見られた：

- 草刈りや出払い作業の業者委託
- 回覧板や広報誌のデジタル化
- 区長や役員の負担軽減(任期短縮、報酬見直し)
- 地区統合や規模縮小の検討
- 子育て世代や働き盛り世代への配慮(行事参加の柔軟化、役員負担の軽減)
- 防犯カメラ設置やゴミステーション管理の強化

5. 区の未来への懸念と希望

多くの正区民が、区の存続が限界に近づいていることを懸念している。一方で、区活動を通じて地域のつながりを維持し、次世代につなげたいという希望も強く見られる。持続可能な仕組みづくりが求められている。

区・集落組合における事例の紹介

【活動のきっかけ】

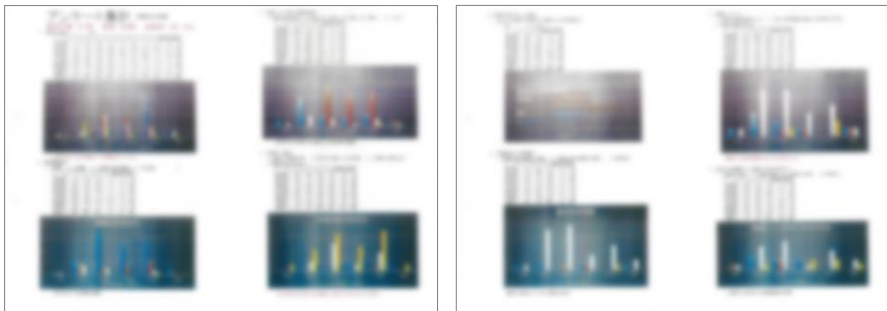
約10年前、地区の人口分布を見て将来への危機感を共有。
若い世帯や地区外からの移住者を受け入れられる地域を目指し、検討を開始した。

【取組の進め方】

若者、女性、消防団、民生児童委員など多様なメンバーによる検討に声をかけ、
テーマ別にグループをつくって検討を実施。

【全世帯アンケートの実施】

各グループにて検討した課題を基にアンケートを一から作成し、区民全員へ配布。
検討結果とアンケート結果(回答率99%)をもとにして提案をまとめ、正副委員長が区会で説明。
翌年度の予算編成において、採用された施策が区の予算に盛り込まれた。
アンケートでは、設問以外の意見も寄せられ、防災活動等の改善に活かされた。



<アンケート結果はグラフを用いて区民に説明>

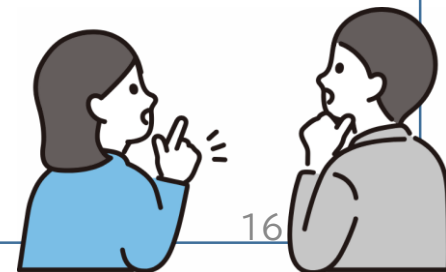
【主な成果】

- ▶独自の定住・子育て支援: 新築補助、子育て加算を導入
→新築3軒、改築1軒、子ども0人から9人に繋がった
- ▶地域活動の担い手確保: 区長傘下に14～15人の活動部隊を設置
- ▶高齢者支援: 高齢者世帯の共同作業「出払い」を免除

【活動のポイント】

区総会等の中では発言しにくい人の声を、アンケートを活用して収集。
答えを一部のメンバーだけでなく、区民を巻き込み皆で出していくことによって、
提案への納得感を高め、具体的な施策の実施・予算化につなげた。

『区民全員の声を丁寧に拾い、提案につなげる』



【きっかけ】

約25年前、米作りと景観維持と区政の担い手不足に危機感を持ち、加入金を0円にするなど、区へ加入しやすい環境を整えてきた。数年前に同様の検討をしていたが、活動自体がとん挫してしまった。

【取組の進め方】

2026年1月に「明日の区政を考える会」を設置。男女各4人、移住者・地元住民各4人で構成し、多様な8人で将来像を検討。景観維持、女性の区政参画、子どもの活動支援、IT化等を検討している。

【準区民の正区民化を推進】

従来の仕組みをそのままに転換を求めるといったことはせず、例えば出払いを「決められた日に一斉実施」から「指定エリアを各自が可能な時に作業」へ見直すなど、誰もが参加しやすい方法を模索中。



【目指す姿・期待される効果】

- ▶区加入率100%による地域活動の担い手確保
- ▶移住者と地元住民が協働できる区政運営
- ▶女性の意見を意識的に取り入れる仕組みづくり
- ▶景観の維持による地域の魅力と不動産価値の向上
- ▶金銭による解決ではなく、できる範囲の活動で支え合う地域

【活動のポイント】

数年前に実施していた活動を改めて復活。多様なバックグラウンドのメンバーを活動の中心に据え、これまでのやり方に住民を合わせるのではなく、仕事をしながらでもできる役員体制、もしくは役割内容への変更を模索中。

『住民を仕組みに合わせず、仕組みを時代に合わせる』



【きっかけ】

区長が「このままでは地区の維持が難しい」「後世に負担を残したくない」との危機感を持ち、区の委員会として立ち上げた。

【取組の進め方】

区長が声を掛けた委員で、地区の課題を4分野に整理して検討。
コロナ禍による休止期間を挟みながら、4年間活動し、区へ答申書を提出した。

【特徴的な観点】

委員会発足時には、区民から期待の声が寄せられ、取組みへの関心が高まっていた。
しかし、本格的に動き始めようとしたタイミングで新型コロナウイルスの緊急事態宣言が発令され、活動の機会が途絶えたことで、改革の機運を具体的な行動につなげられなかった。



<区の人口推移や財政状況などをグラフを用いて分かりやすく現状を説明>

【主な成果】

- ▶公民館などの共有施設に関する検討体制を提案
- ▶区長の負担軽減と女性役員登用の継続検討を提案
- ▶設備の廃止・集約、助成金の見直し、行事の簡素化を提案

【活動のポイント】

区民への説明資料が完成し、本格的に動き始めようとしたタイミングで新型コロナウイルスの感染が拡大。中心となって動いた委員としては、当初思い描いた活動を行うことが叶わず、時間と共に区民の関心が薄れていってしまったと後悔。地域の機運が高まった時に活動を進めることの重要性が明らかになった。

『「機運を逃さず、対話・行動につなげる」ことが重要』



【きっかけ】

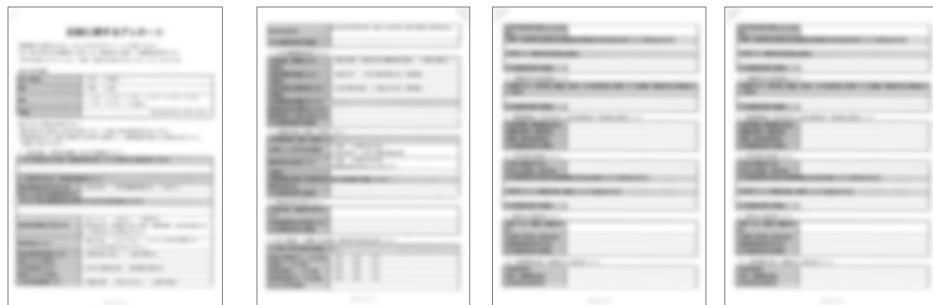
役員のなり手不足や選挙規約の不明確さといった課題が生じたことが直接の契機となった。同区では昭和62年から必要に応じて「区を考える会」などの検討組織を立ち上げ、時代や実態に合わせて組織や制度を見直してきた土壌が背景にあった。

【取組の進め方】

令和5年に「住みよい葛窪を考える会」を新たに設置し、メンバー選出では年代や組、男女のバランス等を考慮した。検討にあたってはメンバーを中心に据えつつ区長の要望事項も取り入れたアンケートを実施しながら検討を進めた。

【特徴的な観点】

単発の取り組みで終わらせず、長年にわたり定期的に検討組織を立ち上げて仕組みを見直し続ける文化が根付いている。また、正・準区民の中間層を設ける柔軟な制度設計や、住民の本音をアンケートで丁寧にすくい上げている。



<検討メンバーにおいて設問項目から検討したアンケートを実施>

【主な成果】

- ▶区規約等を一部改定
- ▶準区民の区分け(常住・非常住)と区費の見直し
- ▶業務等の統合による役員数の見直し
- ▶正区民と準区民の間に特定準区民という新たな区分を創設

平成26年「区政改善実行委員会」で具体案検討改訂
「住みよい葛窪を考える会」で継続見直し
「住みよい葛窪を考える会」で区民の勧誘拡大

【活動のポイント】

課題意識を放置せず、必要に応じて機動的に組織や検討の場を立ち上げ、継続的に見直しを重ねてきたことで、検討の土壌がしっかりと地区に根付いていることが見受けられた。

『時代に合わせて仕組みをアップデートし続ける』



人が、地域を動かす。

熱意 × 巻き込む力 × 推進力

No.	集落支援案の検討視点
1	区・集落組合の重要性について、理解を広げる
2	区長一人に負担が集中しないようにする
3	継続的に取り組める仕組みとする
4	各地区の主体的な意思決定を尊重する
5	実効性のある取組を進められるよう支える
6	地区同士のつながりや、経験・工夫の共有を促す
7	多様な立場や意見を反映できるようにする

参考資料

アンケート結果 「正区民以外の回答」

正区民として加入していない理由

正区民として加入していない方(計179人)のうち、居住年数が「11年以上」の方が65%を占めている。
そのため、以降の回答は、町内に長く居住している方の意見が多く含まれている点を踏まえて見て頂きたい。

	居住1年未満	居住1～5年	居住6～10年	居住11年以上	総計	(参考)人数
正区民以外(準(准)区民・別荘扱い等)として加入している	3.9%	14.0%	9.5%	46.9%	74.3%	133
以前加入していたが、現在は加入していない	0.0%	0.0%	0.6%	10.6%	11.2%	20
加入していない	1.7%	4.5%	1.1%	7.3%	14.5%	26
総計	5.6%	18.4%	11.2%	64.8%	100.0%	179人

正区民として区・集落組合に加入していない、または退会した理由を尋ねたところ、正区民以外の方からは、主に以下の回答が多く挙げられた。(複数選択可・正区民以外を抜粋・合算)

	選択数	選択割合
その他	60	34%
役員や当番の負担が大きそう	59	33%
行事や活動に参加する時間がない	54	30%
年会費(区費)が高いと感じる	39	22%
加入時の負担金(加入金)が高いと感じる	34	19%
必要性を感じない	32	18%
活動内容や仕組みがよく分からない	26	15%
人間関係に不安がある	25	14%
特に強い理由はないが、加入のきっかけがなかった	19	11%
未回答	16	9%
総計	364	—

正区民以外の方は、役員や当番の負担、行事や活動への参加時間、区費への負担感に関する回答が多く見られた。
このことから、正区民として加入していない背景には、加入後の役割や時間、費用に対する不安や負担感があることがうかがえる。

正区民として加入していない理由

その他コメントを内容ごとに分類・整理した結果は以下のとおり。
なお、複数の要素を含むコメントについては、主たる内容に基づき分類。

	件数	主な内容
① ライフスタイル・生活上の制約	16件	二拠点生活、日曜就業、単身赴任、介護、高齢、病気、障がい、家庭事情、別地区での活動など
② 加入時の取扱い・制度・慣習に関するもの	16件	一定期間は正区民になれない、準区民を勧められた、加入を断られた、正区民として認められなかった、声掛けがないなど
③ 住居・契約・居住形態によるもの	17件	貸家・賃貸、別荘地在住、別荘扱い、未定住、転居予定、区外居住、家賃・管理費との関係など
④ 組織運営・区費・必要性への疑問	7件	区費の使途や金額への疑問、年会費を払うだけになっていること、組織への不信感、加入の必要性を感じないなど
⑤ 役割負担・人間関係への不安	4件	役職や行事負担、若い世代への負担集中、小班や近隣関係、冠婚葬祭等の付き合いへの不安など
合計	60件	

30代・40代の傾向

30代・40代では、移住、未定住、賃貸、二拠点生活、親世帯との関係、仕事や家庭の事情など、**生活基盤や居住形態がまだ流動的であることに関する回答**が見られた。
また、「一定期間は正区民になれない」「移住者は準区民と言われた」など、加入時の取扱いに関する回答もあり、地域との関わりを持ち始める段階で、区・集落の仕組みや慣習との間に戸惑いが生じている可能性がある。一方で、強い不満を表す記述や、役割負担への抵抗感もあり、住民側にも地域の仕組みへの理解や、地域に関わる姿勢に濃淡があることがうかがえる。

50代・60代の傾向

50代・60代では、二拠点生活、日曜勤務、単身赴任、別の拠点集落がある、町内の別の場所で加入しているなど、**生活の拠点や働き方が多様であることに関する回答**が目立った。
また、賃貸契約や別荘扱い、加入時に準区民を勧められた、加入の声が掛かっていないといった回答もあり、本人の生活事情と、区・集落側の加入区分や声掛けの方法が一致していないケースがあると考えられる。この年代では、「地域に全く関わりたくない」というよりも、仕事や生活拠点の都合から、従来どおりの参加が難しいため、結果として未加入または準区民という状態になっている回答が多く見られる。

70代以上の傾向

70代以上では、高齢、病気、足が不自由、一人暮らし、家族の入院・施設入所、東京の家族のもとで長期間生活するなど、**健康状態や生活環境の変化により、地域活動への参加が難しくなっている回答**が見られた。また、転入時に準区民や別荘扱いとなった、過去に加入を断られた、正区民として認められなかったといった、過去の加入時の経緯に関する回答も複数あった。
加えて、区費の負担や使途、運営内容への疑問を理由に挙げる回答もあり、加入していない方の中には、費用負担や運営の見え方に納得できず、加入を見送っている方もいることがうかがえる。

正区民として加入していない理由

正区民として加入していない方に対し、どのような条件や環境であれば、正区民として加入した、または加入を続けていたと思うかを尋ねたところ、以下の結果となった。(複数選択可・正区民以外を抜粋・合算)

	正区民以外													
	30代		40代		50代		60代		70代以上		未回答		総計	
	選択数	割合	選択数	割合	選択数	割合	選択数	割合	選択数	割合	選択数	割合	選択数	割合
区費や加入金の負担が軽ければ	5	33%	17	44%	8	40%	4	11%	21	33%		0%	55	31%
加入するメリットを感じられれば	4	27%	18	46%	6	30%	12	33%	11	17%	1	17%	52	29%
参加の頻度や関わり方を選べれば	7	47%	12	31%	8	40%	12	33%	10	16%		0%	49	27%
役員や当番の負担が少なければ	6	40%	15	38%	6	30%	8	22%	12	19%	1	17%	48	27%
行事や活動が現在の生活スタイルに合っていれば	6	40%	11	28%	9	45%	8	22%	10	16%	2	33%	46	26%
短時間・限定的な参加でも認められていれば	6	40%	13	33%	8	40%	7	19%	5	8%		0%	39	22%
若い世代や移住者も参加しやすい雰囲気があれば	4	27%	11	28%	5	25%	5	14%	10	16%	1	17%	36	20%
必要な情報がもっと伝わっていれば	2	13%	11	28%	6	30%	3	8%	12	19%		0%	34	19%
活動内容や役割が分かりやすければ	4	27%	8	21%	6	30%	6	17%	7	11%	1	17%	32	18%
その他	2	13%	8	21%	1	5%	8	22%	11	17%		0%	30	17%
特に条件が変わっても加入しなかったと思う	2	13%	3	8%	3	15%	6	17%	7	11%	1	17%	22	12%
未回答		0%	1	3%	1	5%		0%	13	21%	3	50%	18	10%
総計	48	－	128	－	67	－	79	－	129	－	10	－	461	－
(参考)回答者数	15		39		20		36		63		6		179	

非加入者に、どのような条件であれば正区民として加入・継続していたと思うかを尋ねたところ、「区費や加入金の負担軽減」が最も多く、次いで「加入メリットの実感」「参加頻度や関わり方の選択」「役員・当番負担の軽減」が多く挙げられた。

加入促進に向けては、費用・役割・時間の負担を軽減するとともに、加入の意義や活動内容を分かりやすく伝え、生活スタイルに合わせて関われる仕組みづくりがポイントになることがうかがえる。

居住期間5年未満の非加入者の回答傾向

首都圏などから移住してきた方の中には、従来居住していた地域の自治会等との違いに戸惑う声も多く聞かれる。そこで参考として、居住期間5年未満で、正区民として加入していない方の回答を抽出した。なお、対象者数は43名と少ないため、以下は参考的な傾向として見ていただきたい。

【正区民として加入していない理由】

「役員や当番の負担が大きそう」、「行事や活動に参加する時間がない」が上位を占め、役割や時間的な負担への懸念が強いことがうかがえる。また、「区費や加入金が高いと感じる」、「活動内容や仕組みが分からない」も多く、経済的負担や情報不足が加入をためらう要因となっている。さらに、「必要性を感じない」「人間関係に不安がある」といった回答もあり、地域との接点や参加の入り口の分かりにくさも課題と考えられる。

	回答数
役員や当番の負担が大きそう	21
行事や活動に参加する時間がない	19
その他	16
年会費(区費)が高いと感じる	14
加入時の負担金(加入金)が高いと感じる	13
活動内容や仕組みがよく分からない	12
必要性を感じない	8
人間関係に不安がある	6
特に強い理由はないが、加入のきっかけがなかった	5
未回答	2
総計	116

【加入・継続につながる条件】

加入・継続の条件としては、「区費や加入金の負担が軽ければ」、「役員や当番の負担が少なければ」、「加入するメリットを感じられれば」が上位を占め、負担軽減や暮らしを支える仕組みへの理解がポイントになる。また、「短時間・限定的な参加」、「参加の頻度や関わり方の選択」、「活動内容や役割が分かりやすい」が挙げられ、生活スタイルに応じた柔軟な関わり方が求められている。さらに、「必要な情報提供」や「移住者が参加しやすい雰囲気づくり」も重要な要素と考えられる。

	回答数
区費や加入金の負担が軽ければ	20
役員や当番の負担が少なければ	19
加入するメリットを感じられれば	18
短時間・限定的な参加でも認められていれば	16
参加の頻度や関わり方を選べれば	16
活動内容や役割が分かりやすければ	15
行事や活動が現在の生活スタイルに合っていれば	15
必要な情報がもっと伝わっていれば	11
若い世代や移住者も参加しやすい雰囲気があれば	9
特に条件が変わっても加入しなかったと思う	4
その他	3
未回答	2
総計	148

1. 区への加入をためらう理由

区への加入をためらう理由として、制度の不透明さや負担の大きさが挙げられた。正区民、準区民、別荘区民などの区分や、それぞれの負担や役割の違いが分かりにくいとの指摘が多く、区費や加入金、出不足金の金額や使途に対する不満も目立った。また、出払いや役員、行事参加の負担が重く、仕事や子育て、介護などとの両立が難しいとの声も多く、現行制度が多様な生活スタイルに対応できていないことが課題として記載している方が多かった。

2. 移住者の視点と課題

移住者からは、地域に関わりたい気持ちはあるものの、「昔ながらの慣習」や「よそ者扱い」に対する不安が加入をためらう要因となっているとの意見が見られた。また、地元住民と移住者の間に価値観のギャップがあることや、移住者が地域活動に関われる仕組みが不足していることが課題として挙げられた。町が掲げる「誰もが加入しやすく関わりやすい区」という理念が、現場の実感と一致していないと感じる声も多かった。

3. 具体的な改善提案

以下の具体的な改善提案が挙げられた：

負担軽減：「役員や行事の頻度を減らす」「出払いや草刈りの業者委託」など。

情報提供の充実：「区の活動内容や費用の使途を明確化」「移住者向けの案内を充実」。

柔軟な参加方法：「短時間・限定的な参加を認める」「デジタル化による効率化」。

公平性の確保：「未加入者への対応強化」「区費や加入金のルールの標準化」。

4. 区の存続に対する懸念

区の存続に対する懸念が多く挙げられた。人口減少や少子高齢化により、区活動の担い手不足や負担の偏りが深刻化しているとの意見が目立った。また、区や集落組合を中心とした運営の限界を指摘し、「広域化」や「行政による補助・支援の強化」が必要であるとする声も見られた。

アンケートの内容

(参考)アンケートの内容

Q1 あなたの年代を教えてください

☐ 20代以下 ☐ 30代 ☐ 40代 ☐ 50代 ☐ 60代 ☐ 70代以上

Q2 あなたのお住いの地区について教えてください

<富士見地区>

☐ 御射山神戸 / ☐ 栗生 / ☐ 大平 / ☐ 松目 / ☐ 原の茶屋 / ☐ 若宮 / ☐ 木之間
☐ 花場 / ☐ 休戸 / ☐ 横吹 / ☐ とちの木 / ☐ 富士見 / ☐ 南原山 / ☐ 富原
☐ 富士見ヶ丘 / ☐ 塚平 / ☐ 富ヶ丘

<本郷地区>

☐ 乙事 / ☐ 立沢 / ☐ 瀬沢新田 / ☐ 桜ヶ丘

<落合地区>

☐ 富里 / ☐ 富士見台 / ☐ 下蔦木 / ☐ 上蔦木 / ☐ 神代 / ☐ 烏帽子 / ☐ 平岡
☐ 机 / ☐ 先能 / ☐ 瀬沢

<境地区>

☐ 小六 / ☐ 高森 / ☐ 信濃境 / ☐ 池袋 / ☐ 田端 / ☐ 先達 / ☐ 葛窪

<その他>

☐ 広原 / ☐ その他()

Q3 富士見町にお住まいになってからの年数を教えてください

☐ 1年未満 ☐ 1～5年 ☐ 6～10年 ☐ 11年以上

Q4 区・集落組合への加入状況について教えてください

☐ 正区民として加入している
☐ 正区民以外(準(准)区民・別荘扱い等)として加入している
☐ 加入していない
☐ 以前加入していたが、現在は加入していない

(参考)アンケートの内容

Q5-1(Q4で「正区民以外(準(准)区民・別荘扱い等)として加入している」、「加入していない」、「以前加入していたが、現在は加入していない」と回答した方)

正区民として区・集落組合に加入していない(または退会した)理由を教えてください(複数選択可)

- ☐ 必要性を感じない
- ☐ 活動内容や仕組みがよく分からない
- ☐ 役員や当番の負担が大きそう
- ☐ 行事や活動に参加する時間がない
- ☐ 人間関係に不安がある
- ☐ 加入時の負担金(加入金)が高いと感じる
- ☐ 年会費(区費)が高いと感じる
- ☐ 特に強い理由はないが、加入のきっかけがなかった
- ☐ その他()

Q5-2(Q4で「正区民以外(準(准)区民・別荘扱い等)として加入している」、「加入していない」、「以前加入していたが、現在は加入していない」と回答した方)

どのような条件や環境であれば、正区民として加入した、または加入を続けていたと思いますか(複数選択可)

- ☐ 役員や当番の負担が少なければ
- ☐ 活動内容や役割が分かりやすければ
- ☐ 参加の頻度や関わり方を選べれば
- ☐ 若い世代や移住者も参加しやすい雰囲気があれば
- ☐ 区費や加入金の負担が軽ければ
- ☐ 必要な情報がもっと伝わっていれば
- ☐ 行事や活動が現在の生活スタイルに合っていれば
- ☐ 短時間・限定的な参加でも認められていれば
- ☐ 加入するメリットを感じられれば
- ☐ 特に条件が変わっても加入しなかったと思う
- ☐ その他()

Q6 区・集落組合について感じていることを教えてください(複数選択可)

- ☐ 地域の支え合いとして必要だと感じる
- ☐ 活動には意味があると思う
- ☐ 必要性は感じるが関わり方が分からない
- ☐ 活動内容が現在の生活に合っていないと感じる
- ☐ 役割やルールが分かりにくい
- ☐ 一部の人に負担が偏っていると感じる
- ☐ 参加しづらい雰囲気がある
- ☐ 特に不満はない
- ☐ その他()

Q7 今後、誰もが加入しやすく、関わりやすい区・集落組合にしていくために必要だと思うことを教えてください(複数選択可)

- ☐ すでに誰もが加入しやすく、関わりやすい区・集落組合なので特に改善の必要は感じない
- ☐ 役員や当番の負担軽減
- ☐ 行事や活動の見直し・簡素化
- ☐ 若い世代や移住者への丁寧な説明
- ☐ 活動内容やお金の使い道の見える化
- ☐ 参加の強制感を減らすこと
- ☐ 関わり方を選べる仕組みづくり
- ☐ デジタル活用による連絡・情報共有
- ☐ 少人数でも運営できる仕組みづくり
- ☐ 区・集落組合の役割や必要性の共有
- ☐ 世代を超えて交流できる機会づくり
- ☐ その他()

Q8 今後、どのような形であれば地域に関わってもよいと思いますか(複数選択可)

- ☐ 現在と同程度で関わっていきたい
- ☐ できる範囲で地域活動に関わっていきたい
- ☐ 行事やイベントを中心に関わりたい
- ☐ 負担の少ない活動であれば関わりたい
- ☐ 情報共有や連絡を受ける形で関わりたい
- ☐ 役割や負担が明確であれば関わりたい
- ☐ 必要に応じて協力したい
- ☐ 現時点ではあまり関わるつもりはない
- ☐ その他()

Q9 区・集落組合や地域の暮らしについて、ご意見があればご自由にお書きください